

裁縫及手藝、圖書及圖案、音樂體操トス

第四條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第四條ノ二 前三條ノ科目中音樂ハ學習困難ナリト認メタル生徒ニハ之ヲ課セサルコトヲ得

第六條 文科、理科、技藝科ノ修業年限ハ各四箇年トス

第十條 女子高等師範學校ノ卒業生又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者ニシテ第十二條乃至第四條ニ規定シタル科目中ノ一科目又ハ數科目ヲ專攻セントスル者ノ爲ニ研究科ヲ置ク

研究科ノ修業年限ハ一箇年乃至二箇年トス

第十二條 第三項ヲ左ノ如ク改ム

選科生ノ在學期間ハ四箇年トス但シ特別ノ事情アル者ニ就キテハ學校長ニ於テ本文ノ期間ヲ伸縮スルコトヲ得

附則 本令ハ明治三十七年四月一日ヨリ施行ス

本令施行ノ際現ニ女子高等師範學校ニ在學スル生徒ニ課スベキ科目ニ就キテハ學校長ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受ケ新舊規定ヲ斟酌シテ之ヲ定ムルコトヲ得

尙右規定に由りて、同校規則にも、種々改正を加ふる所あり、改正規則は來學年より施行すべしとのことなり

●東京府第一高等女學校 新築校舎は愈々全部出來せしを以て、去る月十三日盛大なる落成式を

舉行せり▲同じく廿四日には、武州大宮に運動會を催したる由

●女子大學校 運動會は去月廿四日の土曜日午前九時より同校々庭に於て開かれたり。午後一時頃には來觀者の集まりたること雲の如く、門前方ならぬ雑沓を極めたり、係員の言ふ所に由れば其數六千人に上りたりとのことなり。當日のプログラムは次の如し。

第一部

- 開會 軍樂.....陸軍々樂隊諸氏
- 第一 雙毬轉々.....高等女學校第一年
- 第二 毬體操.....(英國式) 高等女學校第二年
- 第三 白.....(和蘭遊戲) 高等女學校第二年
- 第四 繩帶競争.....(英國式) 大學部各第一年
- 第五 くらぶ體操.....(英國式) 大學部各第一年

ハドソン氏考案 高等女學校第三年西組
本校更訂

第六風船競争 家政學部第二學部
引(第一回) 高等女學校第三年東西
引(第二回) 大學部各學年

第八御給仕(米國遊戲)
モートン氏考案 高等女學校第二年
本校更訂

第九啞鈴體操(丁抹式)
アレキサンダー氏 英文豫備科第一、二年
考案本校更訂

第十繰毬競走 高等女學校第四、五年
考案本校更訂

第十一案山子競争 國文學部第二年
ふ(希臘式)

第十二にん アレキサンダー氏 英文學部各學年
考案本校更訂

第十三輪拔競争 高等女學校第四年東西
考案本校更訂

第十四辰宿列張(米國遊戲)
セルル氏考案 大學普通豫科
本校更訂

第十五啞鈴體操(佛國式)
シヨリエマール氏考案本校更訂 高等女學校第五年東西

第十六容儀體操(アルサート式) 大學部二十四名
操(マーチ) 高等女學校八名
車(ゲーム) 大學部十名

正午休憩
第二部

第十八綱引 高等女學校第一年
操(佛國式)

第十九長竿體操 高等女學校第五年東西
アレキサンダー氏 考案本校更訂

第二十御手球 高等女學校第三年東組
球々(日耳曼遊戲)
ヘンセル氏考案 家政學部第一年
本校更訂

第二十一旗旗翹々(日耳曼遊戲)
ヘンセル氏考案 家政學部第一年
本校更訂

第二十二球竿體操(英國式)
ハグヴィー氏考案 大家普通豫科
本校更訂

第二十三徒競走 高等女學校第二、三年
操(西班牙式)
ハドソン氏考案 高等女學校第四年東西
本校更訂

第二十四輕麗體操(西班牙式)
ハドソン氏考案 高等女學校第四年東西
本校更訂

第二十五第二虹霓舞(佛國遊戲)
パツテリック會撰 英文學部拾四名
定本校更訂

第二十六障害物競走 大學部十二名
走
走

第二十七あまぞん(羅馬式)
ステピンス氏考案 高等女學校第五年東西
本校更訂

第二十八巨幕鈴(西班牙遊戲)
シヤールウエンカ氏考案本校更訂 高等女學校第四年東西

第二十九花寶 羅斯塔氏考案 高等女學校第五年東西
本校更訂

第三十 自・轉 車 (マーチ).....高等女學校八名

第卅一 ばすけつと、ぼーる.....大學部五十名

第卅二 圓 舞.....大學部各學年

君 が 代.....高等女學校第四五年

番 外 ろーん、てにす.....一等 同 合 唱

午前八時より全九時まで.....大學部七名及び

正午より午後一時まで.....高等女學校五名

●竹柏會、佐々木信綱氏送別會 先月四日、小石川

酒井家邸内に於て、佐々木氏が今回南清漫遊の途

に上らるゝに付きて送別會を開きぬ。席上島田三

郎、巖谷小波氏の演説あり、終りて園遊會の催しあ

り、一同撮影の後五時散會したり、因に全君は先月

卅日新橋發旅行の途に上れりといふ南清偉大の風

光、幾多の詩料を供せんとして君を待てるなるべし。

●東洋女學校創立 文學博士村上專精、文學士

和田鼎、同村上龍英氏等發起人となり大隈伯、渡

邊子、井上兩文學博士等朝野の學者紳士の賛成を

得て一大女學校を創立する由資金は凡そ十五萬圓
の豫算にて募集すべしと其趣意書に曰く

夫れ我國古來の徳教たる近世二百年間士人以上に在ては頗る儒
教に據る者ありと雖も溯りて千數百年間貴賤上下に通じて費ね

く感化を及ぼせる者を求むれば其れ唯佛教の一途あるのみ而し
て其の化の及ぶ所遺傳の久き浸染の深き其の勢力年平抜く可か

らざる者あり是を以て苟くも之に據て之を導くとときは俗を見へ
風を移すも亦甚だ難しと爲さず是れ固より男女を論せずと雖も

女子に於て尤も更に其の然るを見る然れども現今佛教各派の情
態たる久しく眞諦に偏倚して俗諦に疎濶なりしを以て未だ遠か

に其要求に應ずること能はざる者に似たり是に於て世或は儒教
を主とし或は基督教に資て以て之が教養を爲す者ありと雖も概ね

奮陋に泥まざれば新奇を衒ひ遂に國情民俗に契當すること能は
ず其の甚しきは知識愈々進みて言行愈々社會に逕庭し感化益々

深くして動靜愈々家庭に軒睡するが如き者あるに至る人生の一
大恨事豈復た之に過ぐる者あらんや

我等自ら揣らず此の闕典を補充せんが爲めに茲に東洋女學校を
創立し其の智能は尤も社會に切實なる常識の發達を主とし其の

徳器は尤も家庭に順應せる精神の化育を要し新奇を衒はず奮陋
に泥まらず智徳相資けて以て健全なる淑女を陶冶する一大鑛輔と

爲さんと欲す云々
千葉縣女子師範學校設立認可 豫て設置出願